

日 時：平成26年11月12日（水） 午後1時30分～3時

場 所：旭川市市民活動交流センターcocode 1階 ホール

出席者：構成員 24名

祖母井，大家，菅野（代理），橋本氏，蟹谷氏，中田氏，  
本間氏，踊場氏（代理），荒川氏，山内氏，谷口氏，東  
氏，佐藤氏，森田氏，庄司氏，高橋氏，東（代理），越  
原氏（代理），田中氏（代理），靱山氏，秋山氏，高橋氏，  
砂田氏，辻榮氏

事務局 4名

総合政策部次長 東田 ほか3名

関係者 3名

（一社）北海道開発技術センター 大井氏，村中氏

旭川中央ハイヤー（株） 伊東氏

傍聴者 3名

## 1 開 会

## 2 議 事

### 1）地域協働推進事業について

資料 1-1，1-2 をもとに，事務局より契約締結の報告及び事業の位置付けを説明。その後，受託事業者より今後の事業展開について説明を行い，これを了承。

### 2）地域内フィーダー系統（米飯のりタク）について

資料 2 をもとに，運行事業者が1年間の利用実績を報告した。

### 3）地域公共交通確保維持改善事業の一次評価について

資料 3-1，3-2，3-3-a，3-3-b をもとに，事務局より説明した後，質疑応答。

構成員）ユニバーサルタクシーについて，川崎市では市が20万円の独自補助を行いながら，駅前に優先乗降場を設置するなどして，普及，促進を行っている。

また，事務局案の「ハンディキャップのある人」という表現は適切ではないため，「障害や高齢のため移動困難な人」など言い換えたほうが良い。

あと，資料 3-3-b について，フィーダー系統については，あまり定量目標にこだわりすぎるべきではない。むしろ足の確保をしっかりとやっているということの評価すべきである。地域のモビリティニーズをどれだけ充足しているかを評価基準とすべきであり，例えば移動困難な人をきちんとカバーしているか，といった点のほうが単純な利用者数より重要であると思う。

事務局) 川崎市の事例は今後、研究していきたい。また、事務局案の中の表現については、御指摘のとおり改めさせていただきたい。

また、定量目標の扱いについては、交通会議の中で出た意見はしっかり北海道運輸局にも伝えていきたい。

以上、質疑終了。事務局の評価案を了承。

#### 4) 旭川市生活交通路線について

資料 4-1, 4-2, 4-3 をもとに、事務局より説明。質疑はなく、事務局案を了承。

#### 5) その他について

##### ① 凌雲高のスクールバスについて

事務局) 凌雲高のスクールバス廃止について情報共有と現状説明をお願いしたい

道北バス) 乗務員不足で厳しい状況ではあるが、高校からの要望に沿って、秋月橋循環線について 18 時以降のダイヤを追加し、学生の需要に対応したいと考えている。

旭川電気軌道) 乗務員不足で貸切のスクールバスの運行には応じられないが、東旭川駅から緑が丘駅まで運行している 72 番線の回送に凌雲高校の学生が乗れるようダイヤ改正した。

構成員) 今回、両社は頑張って対応したと思う。ただ、乗務員不足は今後も続くと思うので、今後でも対応できる保障はない。市が乗務員確保の支援を考えることも必要になると思う。

事務局) 乗務員不足については事業者からも聞いており、課題であると認識している。行政が関与することはあまり考えていなかったが、一旦引き取らせていただき、検討させていただきたい。

##### ② IC カード共通化の進捗状況について

道北バス) 車載器の入れ替えから一時的に IC カードの利用ができない。11 月 20 日から 10 日間の予定で入れ替え作業を行う。11 月 25 日から発売を開始し、12 月 1 日から利用可能になる予定である。また、旭川電気軌道との共通運用の開始は来年 2 月になる予定である。現在は運用テストを行っている。

旭川電気軌道) 当社側も、来年の 2 月より共通運用できるようテスト作業を進めている。

##### ③ 市民の声について

\* 事務局から「市民の声」で寄せられた公共交通に関する意見 (①バス利用のマナー、②空港線の利便性、③地域間移動の不便さ) を紹介。

構成員) マナーについて、列をつくらない原因としては、路面に指示線がないことや、マナー教育がきちんとなされていないこと、事業者や行政が列を作ることをきちんと周知していないことが挙げられる。ベビーカーのマナー周知の際は 10 万枚のポスターを作成し、全国の事業者配布した。旭川でも 1 条通などで、一度きちんとキャンペーンをやることを検討してはどうか。

事務局) キャンペーンについては、地区バス協会とも相談して検討していきたい。

構成員) 空港線に関連して、旭川の公共交通は市外の方にやさしくないと感じる。例えば先程、説明のあった公共交通マップにも外国語版があっても良いと思うが、そういうものはあるのか。

事務局) 御指摘のとおり海外のお客様への対応は重要だと考える。観光課では、駅周辺に外国語表記の公共交通案内板の増設を検討している。また、マップについては、予算の制約もあり、外国語版を用意するのは難しいが、バス停の記号化と、マップへの反映はそういった対応の一環として行うものである。北海道はアイヌ語地名も多いため、初めて聞いた人には聞き取りづらい地名もあるが、外国人や市外の方にもシンプルな記号による案内ができるようになると思う。

受託事業者) 海外ではバス停がランドマークになっている。記号化はマップだけではなく、バス停にも反映させて行く必要があると考える。

構成員) 先日、ロンドンで調査を行ってきたが、オリンピックを契機に、充実した情報アプリが提供されている。旭川でも、外国人がマップだけではなく、アプリを使える仕組みがあれば良いと思う。実際に、音声ナビゲーションによるアプリを体験したが、とても便利であり、複数カ国の言語にも対応している。誰が用意するのかなど難しい面もあるが、最新の技術がそういった水準まで来ていることを情報提供させていただく。

#### 4 閉 会

事務局) 次回の交通会議は来年の開催を予定している。

以 上